



地域新時代を拓くプロフェッショナルになる

香川大学大学院 地域マネジメント研究科 2024年度要覧

香川大学大学院 地域マネジメント研究科

事務室 香川大学統合事務センター教務課(地域マネジメント研究科担当)
〒760-8523 香川県高松市幸町2-1
tel.087-832-1826
URL <http://www.gsm.kagawa-u.ac.jp/>

沿革

- 大正12年(1923年) 官立高松高等商業学校を現校地に創立
- 昭和19年(1944年) 高松高等商業学校を高松経済専門学校に改称
- 昭和24年(1949年) 香川大学経済学部発足
- 昭和56年(1981年) 香川大学法学部発足
- 平成15年(2003年) 香川大学大学院地域マネジメント研究科設立認可
- 平成16年(2004年) 連合法務研究科とともに大学院地域マネジメント研究科創設
- 平成21年(2009年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定
- 平成26年(2014年) 創立10周年記念行事開催
- 平成26年(2014年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定
- 平成31年(2019年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定
- 令和6年(2024年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定

2024年4月1日発行

Business School!



香川大学大学院地域マネジメント研究科は、
わが国初の地域活性化に貢献する教育研究を目的とした
経営系専門職大学院として開校し、21年目を迎えました。

“ ビジネスと地域公共領域の融合で地域のリーダーを養成します。 ”



香川大学大学院
地域マネジメント研究科長
中村 正伸

ご挨拶

日本の経済と社会を建て直すため、地域の役割が注目され、官民あげて地方創生の取組みが行われてきています。国立大学法人も各地域において、中心的なプレーヤーのひとつとしての役割を果たすことを求められる時代になっています。香川大学も、「持続可能な地方分散型社会の実現に貢献する人材の育成と研究の推進」をビジョンに掲げ、DRI(デザイン・レジリエンス・インフォマティクス)教育に注力し、大学全体として地域貢献を進めています。

そんな中、大学院地域マネジメント研究科は、中国四国地方で唯一のMBAが取得できる経営系専門職大学院として発足し、国立大学法人としては全国で4番目に開校したビジネススクールです。大学基準協会による経営系専門職大学院の認証を受け、要求される研究教育水準を満たしているという評価結果をいただき続けてきました。設立された当初としては珍しく、地域活性化に貢献する教育・研究に、他大学に先んじて焦点をあてた初めてのビジネススクールであり、歴史を刻み続けた結果、そのことが他に類を見ない特徴となり、この春には無事21期生を迎えています。本研究科には、早くから地域活性化のための教育研究に取り組み、切り開いてきたパイオニアとしての自負があり、学生と教員が共に培ってきた経験の蓄積は大きな財産となっています。修了生は600名を数えるまでになり、それぞれが現場で目覚ましい活躍をされています。今後さらに、地域活性化への取組みを加速させ、その成果をより大きく、発展させなくてはなりません。具体的には、香川大学全体として、地域におけるアントレプレナーシップの促進や、世代を超えてのリカレント教育への注力など、過去20年間取り組んで来た経験とネットワークを最大限に活かし、さらに地域貢献に注力して参ります。

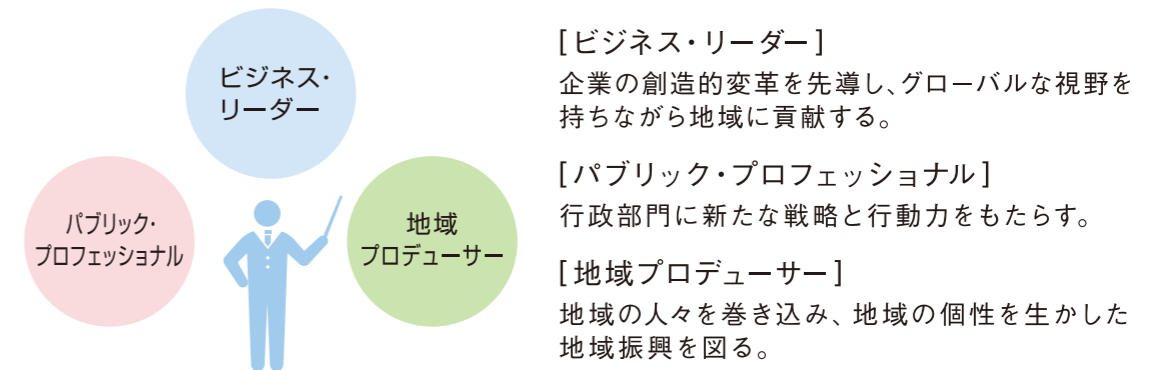
学生の多くは昼間に仕事をしながら熱心に学ぶ社会人です。最近では女性の割合が増加傾向にあるとともに、世代、業種という点でも、多様性がますます広がっています。本研究科は、地域活性化を主体的にリードする人材を育成するというミッションの下、民間企業のような営利組織だけでなく、自治体や行政機関、NPO法人や、学校、病院といった非営利組織の方々、経営者や幹部職員、一般職員、学校長といった、さまざまなバックグラウンドを持つ学生が学ぶ場となっており、貴重なネットワーク形成の場ともなっています。現役学生が修了生も交え、組織の垣根を越え、組織の都合のみに捉われることなく、既存組織や事業の運営のみならず、起業や新規事業、そして地域について語りあり、深く交流、切磋琢磨し合い、充実した2年間の学生生活を送ることができる場となっています。協力し合える仲間が見つかり、学生同士による地域活性化のプロジェクトが創発される土壌が育まれています。

2年間の正規プログラム修了により、MBA(Master of Business Administration) と称する経営修士(専門職)の学位が授与されます。修了生は地域のリーダーとして、必ずしも地域の枠に捉われることなく、活躍することが期待されます。あるいは、大学に新たに誕生した創発科学研究科の博士後期課程への進学もありえます。香川大学大学院地域マネジメント研究科で学び、人生の新たなページを開いて欲しいと思います。

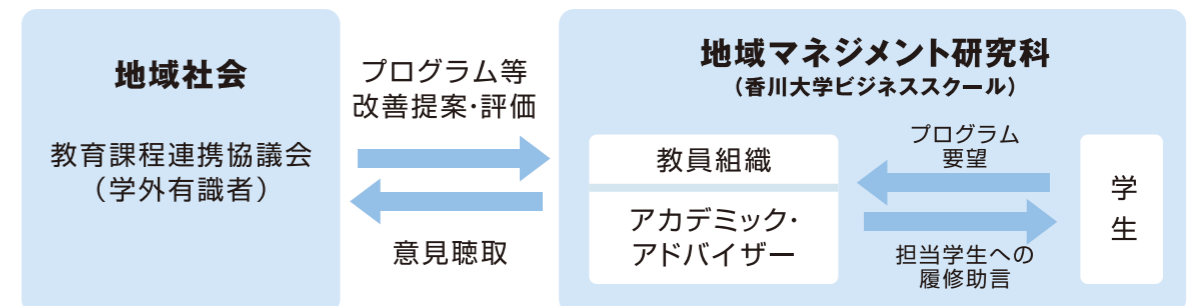
地域マネジメント研究科の概要

学位名称	経営修士(専門職) MBA (Master of Business Administration)
学生定員	入学定員 30名 / 収容定員 60名
授業時間	昼夜開講 平日(月曜日～金曜日)の夜間の授業時間帯 第1時限/18:20～19:50 第2時限/20:00～21:30 また土曜日にも授業を行うとともに、夏季などの休業期間に集中講座を実施し、社会人に都合のよい時間割に配慮します。さらに、自習サポートシステムを整備し、勉強の便宜を図ります。
標準修業年限	2年
修了要件	40単位以上の取得

養成する人材像



学生と地域に開かれた組織



教育課程連携協議会では、地域社会の期待や要請を研究科内のカリキュラムに反映させるため、毎年、地元を代表する経済界・行政の有識者と本研究科教員との意見交換会を開いています。

香川大学大学院地域マネジメント研究科では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、分析基礎科目（4単位以上）、基礎科目（「研究倫理（1単位必修）」を含む10単位以上）、地域基礎科目（4単位以上）、応用科目（自由選択）、プロジェクト科目（8単位必修）から構成される教育課程を編成・実施します。修了要件は上記科目40単位以上の修得およびプロジェクト研究の審査に合格することです。なお、大学院教養科目に相当する科目が基礎科目及び地域基礎科目に設定されています。地域マネジメント研究科では、地域活性化に貢献できる人材を養成するため、理論と実践のバランスを図りながら、多様な個別のニーズに柔軟に対応できる体系的なカリキュラムを構築しています。入学時から修了時まで、学生一人ひとりの研究・教育上の相談相手となる教員（1年次：アカデミック・アドバイザー、2年次：プロジェクト科目担当教員）を複数割り当て、支援を行うことで、学生の多様な問題意識や目的に対応した履修計画を適切にカスタマイズできる体制を構築しています。ディプロマ・ポリシーの各項目の達成は、以下に示した大学院教養教育科目を含む体系的教育をもって実現します。

1. 専門知識・理解

「社会一般の問題を定性的・定量的・数理的に分析し解決する能力（定性的・定量的・数理的的分析能力）」「マネジメントで必要とされる基礎的知識及びその獲得能力（基礎力）」「四国地域を客観的に把握し当該地域が抱える具体的問題を見つけ出す能力（地域問題発見能力）」は、それぞれ「分析基礎科目」「基礎科目」「地域基礎科目」により修得することができます。

2. 研究能力・応用力

第1年次から第2年次の間、応用科目を通じて、地域活性化に貢献する上で必要な専門知識を理論と実践のバランスを図りながら体系的に修得し、その知識を個別分野及び個別地域における様々な課題に投影する際に必要となる応用的能力（応用力）を身につけます。また、第2年次に配置されたプロジェクト科目を通じて、地域活性化に貢献できるプロジェクトや調査を自ら企画・実行・発表するための実践的な課題解決能力（総合力）を修得します。

3. 倫理観・社会的責任

本研究科の授業科目には、いずれも社会的要請に基づき、企業・行政が持つべき倫理観と社会的責任に関する内容が基本前提として取り入れられています。基礎科目の「研究倫理」に加え、その他の授業を幅広く履修することで、高い倫理観及び社会的責任に関する自覚と理解を踏まえつつ、地域活性化に貢献するための課題解決に必要な戦略や政策を立案・実行する能力を身につけることができます。

4. グローバルマインド

第1年次から第2年次の間、主に応用科目を通じて、地域資源を活用し発展させ、地域全体の活力を向上させるために必要とされるグローバルな視野に基づいた政策及び戦略を立案し提案できる能力を身につけることができます。

以上の学習成果の評価は、シラバスに記載している方法によって、各授業科目の到達目標の達成度で評価します。プロジェクト科目は、教員全員による評価と指導教員による評価を合わせ総合的かつ厳格な審査を実施し、プロジェクト研究の最終的な可否判定を行います。

取得できる学位

経営修士（専門職） MBA (Master of Business Administration)

特色となる5つのポイント

A 多彩な専任教員・講師

専任教員は、経営領域と、地域科学分野の優れた研究業績を有する研究者教員と、中央省庁・自治体や企業での豊富な経験を有する実務家教員からなります。非常勤講師には、県内外から産官学各界を代表する方々に就任していただいています。行政関係では、四国財務局長などの省庁の局長、香川県知事などの自治体トップ、経済関係では地域企業の経営者、全国企業の支店長など多彩な講師を迎え入れ、さらに地域とタイアップした講義などカリキュラムの充実に努めています。

B 理論と実務の双方向教育

多彩な教員による実務的な科目群、理論的な科目群、そして集大成を図るプロジェクト研究などのカリキュラムについて、理論と実務の双方から教育に取り組めます。またビジネススクールの特性を活かし、ケース教材開発を積極的に推進し、それを活用した教育を行います。

C きめ細やかな少人数教育

専任教員1人あたりの学生数は学年あたり約3人です。学生1人ひとりの問題意識に応じたきめ細やかな指導が可能です。また、専任教員によるアカデミック・アドバイザー制度を設け、学生1人ひとりの学習上の相談に応えます。

D 社会人に便利な教育環境

討論が出来るスペースやPCを備えた24時間利用可能な本研究科専用ラウンジとPCルームを整備するほか、一部科目では、遠隔で講義が受講できます。また欠席および復習用に講義収録を行う科目もあり、忙しい社会人が学びやすい環境です。

E 絆を深める多彩なイベント、交流の機会も豊富

いま地域では、民間企業と行政、NPOなど、市民組織の連携が求められています。異業種や異分野の人々と顔見知りになる機会は意外に少ないのが現状です。本研究科では多様な業種の社会人が学びの場を通して志を同じくし、学生同士の貴重な人的ネットワークが形成されます。こうした絆は、通常の講義でのグループ単位によるケースディスカッションをはじめ、夏期合宿など、多彩な交流の機会によって育まれます。

アドミッション・ポリシー（学生受入方針）

求める学生像（入学者に求める学力・能力・資質等）

大学院入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えていることを求めています。

1. 知識・技能・理解力

4年制大学卒業相当の者が身につけているべき一般的な能力（特定の分野の知識や技能は求めない）

2. 思考力・判断力・表現力

地域活性化に関する諸課題を論理的に考え、他者に説明できる表現力・コミュニケーション能力

3. 応用力

地域活性化に関する諸課題から、自身に関心を寄せるものに焦点を当て、課題が生じる原因やそれを解決する社会的意義等を整理する力

4. 探求心・意欲・態度

地域活性化に関する諸課題に主体的に取り組み、多様な人々と協働して学び、地域に貢献しようとする高い志・意欲・態度

5. 倫理観・社会的責任

地域活性化に貢献することを志す者が持つべき倫理観とその社会的責任を理解できる能力

6. グローバルマインド

地域活性化に関する諸課題を、単に当該地域や国内で閉じた問題として捉えず、国際社会の中での問題として捉えようとする志向性

入学者選抜の基本方針

一般選抜

一般選抜は、社会人経験の乏しい4年制大学卒業相当の学位を有する者について、「ビジネス・リーダー」「パブリック・プロフェッショナル」「地域プロデューサー」を目指す上で必要な学力・能力・資質等を見ることを目的としています。小論文では、4年制大学卒業相当の者が身につけているべき一般的な能力、理解力、思考力（着眼点および論理性）、表現力を評価します。面接では提出書類を参考にしながら、思考力（着眼点および論理性）、理解力、応用力、コミュニケーション能力、地域活性化に貢献することを志す意欲や倫理観、グローバルマインドを評価します。

社会人選抜

社会人選抜は、十分な社会人経験および4年制大学卒業相当の学位を有する者について、「ビジネス・リーダー」「パブリック・プロフェッショナル」「地域プロデューサー」を目指す上で必要な能力・資質等を見ることを目的としています。面接では提出書類を参考にしながら、思考力（着眼点および論理性）、理解力、応用力、コミュニケーション能力、地域活性化に貢献することを志す意欲や倫理観、グローバルマインド、および社会的実績を評価します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

香川大学大学院地域マネジメント研究科では、その教育理念に基づき、地域活性化に貢献する上で必要な基礎及び専門知識を理論と実践のバランスを図りながら体系的に修得し、地域活性化に貢献できるプロジェクトや調査を企画・実行・発表する「総合力」を身につけ、高い倫理観と社会的責任のもと、国内外におけるマネジメントや地域政策の現場で活躍できる幅広い能力を備えた人材を育成します。具体的には、企業におけるビジネス・リーダー、行政におけるパブリック・プロフェッショナル、地域資源を活かして活性化を図る地域プロデューサーなど、地域新時代を拓くプロフェッショナルを養成することを目指します。本研究科を修了し、本学が送り出す経営修士（専門職）が身につけるべき能力・態度の到達基準は次のとおりです。

1. 専門知識・理解

定性的・定量的・数理的的分析能力: 社会一般の問題を定性的・定量的・数理的に分析し解決することができる。

基礎力: マネジメントで必要とされる基礎的知識及びその獲得能力を有している。

地域問題発見能力: 四国地域を客観的に把握し当該地域が抱える具体的問題を見つけ出す能力を有している。

2. 研究能力・応用力

応用力: 地域活性化に貢献する上で必要な専門知識を理論と実践のバランスを図りながら体系的に修得し、その知識を個別分野及び個別地域における様々な課題に投影する際に必要となる応用的能力を備えている。

実践的課題解決能力（総合力）: 地域活性化に貢献できるプロジェクトや調査を自ら企画・実行・発表するための実践的な課題解決能力（総合力）を備えている。

3. 倫理観・社会的責任

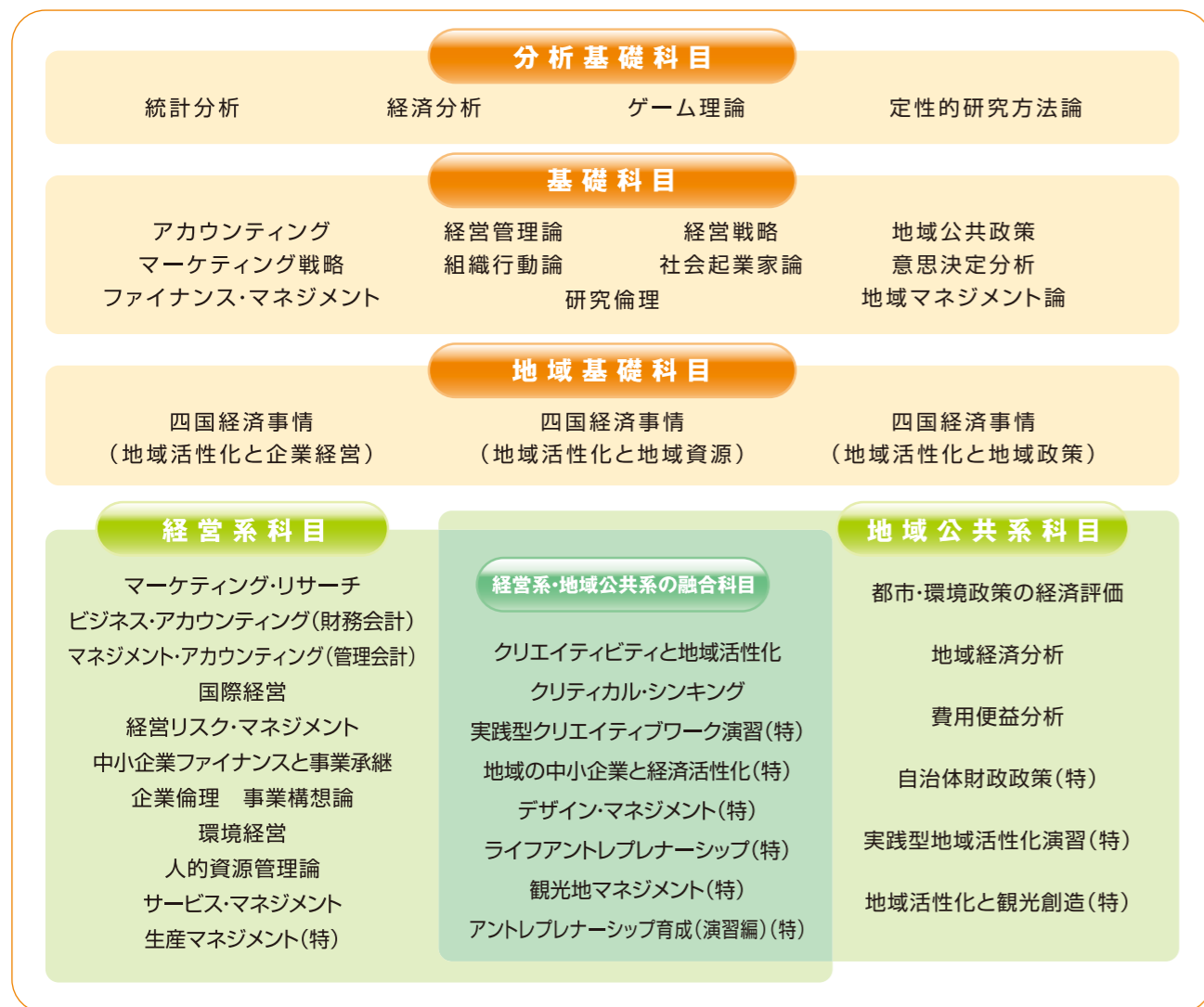
地域活性化に貢献する専門的人材として、高い倫理観と地域の企業や行政が果たすべき社会的責任に関する自覚と理解を備えた上で、課題解決に必要な戦略や政策を立案・実行することができる。

4. グローバルマインド

地域資源を活用し発展させ、地域全体の活力を向上させるため、グローバルな視野に基づいた政策及び戦略を立案し提案できる能力を備えている。

地域リーダーを育成する経営・地域公共の融合的カリキュラム

地域活性化に貢献するリーダーを養成するため、本研究科は一般的なMBAに地域の要素を加え、経営系と地域公共系を融合したカリキュラムを構築しています。学生諸氏は、分析基礎科目、地域基礎科目、基礎科目、応用科目などのカテゴリーの中から、各々の問題意識や志向性に沿って科目を選択し、地域の問題を的確に把握し解決する能力や、組織をマネジメントする能力などを身につけます。



■研究倫理は1単位、プロジェクト演習・研究は各4単位、他の科目は2単位、(特)は年度ごとに設置する特別講義。
 ■修了要件…基礎科目10単位以上、地域基礎科目4単位以上、分析基礎科目4単位以上、プロジェクト科目8単位。合計40単位以上。

科目群	授業科目	単位	開講	担当教員名
分析基礎科目	統計分析	2	後期	島根 哲哉
	ゲーム理論	2	後期	宍戸 栄徳(非常勤)
	経済分析	2	前期	長町 康平
	定性的研究方法論	2	後期	板谷 和彦
基礎科目	研究倫理	1	集中	三好 秀和・板谷 和彦
	経営戦略	2	前期	西中 美和
	アカウンティング	2	前期	中村 正伸
	組織行動論	2	前期	吉澤 康代
	経営管理論	2	前期	板谷 和彦
	マーケティング戦略	2	前期	大崎 孝徳
	ファイナンス・マネジメント	2	前期	三好 秀和
	地域公共政策	2	集中	渡邊 誠(非常勤)
	地域マネジメント論	2	前期	原 真志
	社会起業家論	2	前期	佐藤 勝典
地域基礎科目	意思決定分析	2	集中	沼田 秀穂(非常勤)
	四国経済事情(地域活性化と地域政策)	2	前期	長町 康平・非常勤講師
	四国経済事情(地域活性化と企業経営)	2	後期	西中 美和・非常勤講師
応用科目	四国経済事情(地域活性化と地域資源)	2	集中	佐藤 勝典・非常勤講師
	マーケティング・リサーチ	2	後期	大崎 孝徳
	ビジネス・アカウンティング(財務会計)	2	後期	國村 年(非常勤)
	マネジメント・アカウンティング(管理会計)	2	前期	中村 正伸
	人的資源管理論	2	前期	吉澤 康代
	都市・環境政策の経済評価	2	前期	島根 哲哉
	国際経営	2	後期	山本 靖(特命)
	地域経済分析	2	後期	長町 康平
	費用便益分析	2	集中	那須 清吾(非常勤)
	経営リスク・マネジメント	2	前期	志田 慎太郎(非常勤)
	事業構想論	2	前期	山本 靖(特命)
	企業倫理	2	前期	岡本 人志(非常勤)
特別講義	環境経営	2	集中	木全 晃(非常勤)
	サービス・マネジメント	2	集中	西中 美和
	クリティカル・シンキング	2	後期	沼田 秀穂(非常勤)
	中小企業ファイナンスと事業承継	2	後期	三好 秀和
	生産マネジメント	2	前期	北 真収(非常勤)
	地域の中小企業と経済活性化	2	後期	かがわ産業支援財団提供講義・三好 秀和
プロジェクト科目	地域活性化と観光創造	2	後期	四国ツーリズム創造機構提供講義・佐藤 勝典
	観光地マネジメント	2	前期	藤田 明久(非常勤)
	アントレプレナーシップ育成(演習編)	2	集中	沼田 秀穂(非常勤)・吉澤 康代・西村 美樹(特命)
プロジェクト科目	プロジェクト演習	4	前期・集中	全専任教員
プロジェクト科目	プロジェクト研究	4	後期	全専任教員



教授 研究科長

Masanobu Nakamura

中村 正伸

略歴

【学 歴】一橋大学法学部卒(1995)
一橋大学大学院法学研究科修士課程修了(1999)・法学修士
明治大学大学院経営学研究科修士後期課程修了(2014)・博士(経営学)

【職 歴】プライスウォーターハウス・コープス・コンサルティング(現IBM, 1999-2004)
新日本監査法人(現新日本有限責任監査法人, 2005)
アルテミス・ビジネス・コンサルティング(2006-2011)
アビームコンサルティング(2011-2014)

担当授業科目

アカウントニング
マネジメント・アカウントニング
四国経済事情
(地域活性化と地域政策)

アカウントニングでは、会計に期待されている役割を考察します。数年前発覚した内資大手企業や監査法人を巡る会計不祥事を頭の片隅に置く必要はあるものの、そもそも会計の果たす役割について、過去・現在・未来の時間軸で検討したいと思います。マネジメント・アカウントニングでは、その目的である組織のメンバーの「動機付け」を念頭に議論を行います。組織・個々人の責任を明確にして、前向きな気持ちを持たせてやらせてみる、そしてその業績を評価する。その役割を担うのがマネジメント・アカウントニングです。組織は生き残りをかけて変化へ対応する必要があります。そのためにマネジメント・アカウントニングが果たす役割を皆さんと考えたいと思います。

研究テーマ

研究実績・実務業績

プロジェクト組織におけるマネジメント・アカウントニング、即ち管理会計の役割を研究しています。プロジェクト組織は、特定目的のために編成される臨時組織であり、目的を達成すれば解散します。従来管理会計は、部門と呼ばれる比較的安定的な組織を前提に研究がなされてきました。しかし、製品やサービスのライフサイクルが加速度的に短期化している現代においては、変化に対応して、新しい製品やサービスを継続的に市場に送り出す必要があります。そのために、常に組織の編成・解散を繰り返し臨機応変に対応することになります。そのような活動を有限な資源により遂行していくための会計の役割を研究しています。



教授 副研究科長

Shinji Hara

原 真志

略歴

【学 歴】東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学(1995)・修士(理学)

【職 歴】香川大学経済学部専任講師(1995-1996)、同助教授(1996-2004)
香川大学大学院地域マネジメント研究科助教授(2004-2007)、同准教授(2007-2010)
同教授(2011-)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員研究員(1998-2000, 2011-2012)
香川大学大学院地域マネジメント研究科研究科長(2015-2023)

【公職等】「四国八十八景選定委員会」選定部会委員(四国地方整備局)、「映像コンテンツ・ビジネスモデル研究会」委員(経済産業省)、広域周遊観光促進四国地域連絡調整会議(四国運輸局)
香川県産業成長戦略に関する懇談会委員、三豊市総合計画審議会委員長
香川ビジネス&パブリックコンベ実行委員長、Setouchi-i-Base アドバイザーなど

担当授業科目

地域マネジメント論
クリエイティビティと
地域活性化
実践型クリエイティブ
ワーク演習
ライフアントレプレナーシップ

[地域マネジメント論]地域のマネジメントには何が求められるか?企業にとって地域の意味は何か?地域の様々な課題を解決するポイントは何か?ネットワーク・知識創造・リーダーシップ・クリエイティビティ・信頼・エフェクチュエーションなどのテーマを、ケースと理論の両面から考えます。地域活性化に取組む際に共通して必要な考え方を身につけ、本物の実践的思考力を養う場を提供します。[クリエイティビティと地域活性化]地域の隠れた魅力に光をあて、地域の要素を効果的に組み込んだ深いストーリーの映画脚本作成と、映画と地域資源のコラボによるビジネスプランの作成により、個性あるクリエイティビティを發揮しての地域活性化を目指します。[実践型クリエイティブワーク演習]地域映画や地域版ブランドコンテンツの脚本を練り上げる実践的演習を行います。

研究テーマ

研究実績・実務業績

徹底した現場主義と、定性・定量の両方を用いる複眼的アプローチが持ち味で、クリエイティビティと異なる知識の融合を対象にしています。アメリカのロサンゼルスにあるUCLAで1998年から1年半研究して以来、ハリウッド映画産業に関する現地調査に基づく研究を進め、日本の映画・アニメ産業との比較分析を行っています。さらに香川、四国、瀬戸内の地域活性化に関して、1) 瀬戸内の島嶼部を対象にした地域活性化の研究、2) 地域におけるアントレプレナーシップや地域から国際展開を狙うアントレプレナーシップの研究、3) 香川漆器など伝統産業の国際化に関する研究、そしてMBAならではの研究と実践をつなぐ取組みに力を入れています。



教授

Kazuhiko Itaya

板谷 和彦

略歴

【学 歴】東京大学理学系大学院相関理化学専攻修士課程修了(1986)・理学修士、(2002)博士(工学)
東京大学総合文化研究科広域科学専攻修士後期課程修了(2010)・博士(学術)

【職 歴】(株)東芝 総合研究所(現研究開発センター)研究主務、経営変革エキスパートなどを経て研究主幹(1986-2012)、カリフォルニア大学サンタバーバラ校客員研究員(1993-1995)、東京工業大学大学院総合理工学研究科非常勤講師(2000-2002)、東芝ビジネス&ライフサービス(株)テクニカルサービス部長(2012-2017)、東京農工大学 工学府産業技術専攻教授(2013-2017)、香川大学大学院教学センター副センター長(2021-)、創発科学研究科副研究科長(2024-)

【公職等】研究・イノベーション学会 会計理事(2020-2022)、評議員(2012-)
PICMET (Portland International Center for Management and Engineering of Technology) プログラム委員(2007-)

担当授業科目

経営管理論
定性的研究方法論
研究倫理

[経営管理論]企業や自治体などの経営組織においては、必ず基盤となる組織のフレームと管理のシステムが存在します。本講義ではそれらと深く関わる理論・学説と、どのような役割と機能を有するか理解を深めていきます。さらに、国内だけでなく海外の先進企業の事例も示しながら今日における経営と管理のあり方についてもグローバルな視点で考察をはかっていきます。[定性的研究方法論]社会的フィールドや様々な行動の背後に隠れた「意味」に着目し、これを再構成・理論化するのに有効な定性的研究方法論について学びます。グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)を中心に方法論としてのプロセスを解説した上で、プロジェクト演習・研究や様々な機会実践できるように演習を進めていきます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

組織におけるナレッジワーカー(知識労働者)の様々な創造活動の実証的分析、「セレンディピティ」と呼ばれる偶発的なアイデア創出の理論的解明や、イノベーションを促進するマネジメントシステムを提案する研究を行っています。技術系企業において工学分野の研究や、技術をサービスセクターの新事業へと結合させる活動など、実務家としても経験を重ねてきました。「地域新時代」をむかえ、企業や地域の様々な経営組織における現場でナレッジワーカーの創造性発揮が強く求められていると考えます。大学と地域企業の双方向にコミュニケーションをはかりながら研究を推進していきます。受賞:PICMET '17 Conference Brad W. Hosler Outstanding Student Paper Award Nominating Professor 2017



教授

Takanori Osaki

大崎 孝徳

略歴

【学 歴】九州大学大学院経済学府企業産業システム専攻修士後期課程修了(2005)・博士(経済学)

【職 歴】トヨタ自動車(株)(1993-1995)
長崎総合科学工学部専任講師(2000-2002)助教授(2003-2005)
名城大学経営学部助教授(2005-2007)准教授(2007-2010)教授(2010-2018)
ワシントン大学客員研究員(2007-2008)
デラ・サール大学特任教授(2018-2020)
神奈川大学経営学部教授(2020-2023)
香川大学大学院地域マネジメント研究科教授(2023-)

担当授業科目

マーケティング戦略
マーケティング・リサーチ

[マーケティング戦略]マーケティングを戦略的に実行していくための考え方および手法について学びます。具体的には、マーケティング戦略の基礎となる事業戦略および競争地位別戦略、STP、マーケティング・ミックス(商品・価格・流通・プロモーション)戦略について検討します。さらに、近年注目される「消費者との関係性」「ブランド」「グローバル」「社会」といったキーワードと関わるマーケティングの戦略の実行に関して理解を深めます。[マーケティング・リサーチ]マーケティングの意思決定を支援するために必要な情報の収集・分析について学びます。具体的には、マーケティング・リサーチの概念、プロセス、定性・定量調査、消費者ニーズの把握、新製品・サービス開発など、実践的なテーマを取り上げます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

これまで「ICTを活用した消費者との関係性構築」、「携帯電話端末の国際マーケティング」といった研究テーマに取り組んできました。現在は「価格競争を回避するための商品・サービスの高付加価値化(プレミアム化)」というテーマに取り組んでいます。コスト優位性に劣る日本企業にとって重要なテーマであると考えています。こうした研究から得た知見を活かし、今後は「地域産品のマーケティング戦略」について、生産者・流通業者・地方自治体への個別訪問面接調査、消費者への質問票調査などを通じて探究していきます。



教授

Miwa Nishinaka

西中美和

略歴

[学 歴] 慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 経営管理専攻修了(2001)・修士(経営学)
北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科 博士後期課程修了(2015)・博士(知識科学)
[職 歴] 日本アイ・ビー・エム(株)(1986-2014)
北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科 研究員(2015-2016)
総合研究大学院大学 特任准教授(2016-2019)
香川大学 大学院地域マネジメント研究科 教授(2019-)
[公職等] 研究・イノベーション学会 業務理事(2018-2021)、業務委員(2021-)
香川県職業能力開発審議会 会長(2019-)
日本ナレッジ・マネジメント学会 学会誌編集委員(2020-)

担当授業科目

経営戦略
サービス・マネジメント
四国経済事情
(地域活性化と企業経営)

[経営戦略]組織が価値を創出し将来展望を考える上で重要な、事業定義の考え方、競争優位を築くための戦略、コア・コンピタンス等に関わる、代表的な経営戦略の理論とフレームワークを、実際の事例を交えながらの講義や、討議を通じて体系的に説明します。さらに、それらを包括的に含む経営戦略策定演習を行います。
[サービス・マネジメント]サービス・マネジメントは、比較的新しい分野です。本講義では、価値共創、ウェルビーイング、ホスピタリティ、共感、信頼等、サービスシステムを構築するために必要な代表的理論と方法論を、事例を併用し体系的に説明します。その上で、組織(企業、行政、医療等)としてサービスを提供する仕組みを演習により考えます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

経営資源として重要な知識資源の中でも、特に、暗黙的知識をコア・コンピタンスと位置づけ、その知識が表出化・明確化され、組織的知識となってゆくプロセスの概念モデル化・方法論化の研究を行っています。知識のつながりは価値を生み出すため、対象範囲を地域に拡張し、持続的価値共創によるウェルビーイングを目指すためのモデル形成に関わる研究も進めております。具体的には、イベントによる住民の認知と地域の変化の研究です。他、企業や地域の将来展望を検討するための戦略ロードマッピングやSFプロトタイピング手法の研究を行っています。
受賞:第8回知識共創フォーラム 論文 共創賞受賞(2019年3月)
Outstanding Paper Award at the 17th International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support System (2022年12月)



教授

Hidekazu Miyoshi

三好 秀和

略歴

[学 歴] 慶應義塾大学経済学部卒業(1986)、早稲田大学大学院ファイナンス研究科修了(2006)・ファイナンス修士、京都大学経済学博士(2012)
[職 歴] 第一生命保険相互会社(1986-2001)、日経QUICK情報編(2001-2007)、立命館大学大学院経営管理研究科教授(2007-2017)
一般社団法人高度人材養成機構理事長(2017-2020)
[公職等] 日本おもてなし学会理事、日本FP学会理事、生命保険経営学会、試験委員(日本商工会議所・金融事情研究会主催DCプランナー認定制度)、試験委員(日本証券アナリスト協会主催プライベートバンキング試験制度、資産形成コンサルタント教育委員)、投資信託協会ビジネス等環境整備小委員会委員長(2016-2017)、大阪市職員の人事管理に関する専門委員(2016-2017)、香川大学金融証券研究会顧問、日本ベンクラブ会員 等

担当授業科目

ファイナンス・マネジメント
中小企業ファイナンスと
事業承継
研究倫理

ファイナンス・マネジメントの講義対象は企業です。企業経営と金融・資本市場とがどのような関わりをもって経済活動をおこなっているのかを検討します。初学者向けの基本科目であることを踏まえてファイナンスの基本概念が身に着くように講義します。中小企業ファイナンスと事業承継は応用科目です。企業の生成から成長、発展し、株式を公開し上場するまでをファイナンスの3つ(自己資本、借入、ベンチャーキャピタルによる出資)の観点から検討します。受講生は自らシミュレーション上の起業をしながら企業の成長プロセスが体感できます。その成長過程でコーポレートファイナンスの主要な技法を学ぶことができます。さらに、中小企業の課題である事業承継の方法論を学びます。ライフプランニング論は人生をファイナンスの観点から見つめ直す講義です。

研究テーマ

研究実績・実務業績

これまで資産運用業の研究をおこなってきました。現在はリーマンショック以降、少子高齢化による人口オーナス社会の中で誇り高く調和のとれた共生社会を生み出すために、金融が果たす役割は何かを研究しています。キーワードを示せば、個人の視点ではリタイアメントプラン、リバースモーゲージ、企業の視点では働き方改革、事業承継、金融の視点では地域創生ファンド、地域通貨、そして、財政の視点では、共生社会の実現、民生費、社会保障費、地方への税移譲、シェアリングエコノミーです。学術的な貢献に留まることなく地域で実践的に役立つことが必要であると考えています。



教授

Yasuyo Yoshizawa

吉澤 康代

略歴

[学 歴] 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了
[学 位] 政策・メディア 博士(慶應義塾大学)(2009)
[職 歴] 株式会社ヒューマンリソース研究所(1996-2005)、株式会社コーポレイトユニバーシティプラットフォーム(2006-2010)、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任講師(常勤)(2010-2013)、香川大学大学院地域マネジメント研究科専任講師(2013-2017)香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2017-)
[公職等] 香川県行政改革推進会議委員副議長(2019-)、人材育成学会役員編集委員会委員(2020-)、丸亀市行政改革推進委員会委員長(2021-)、厚生労働省「地域雇用活性化推進事業」地域雇用活性化支援アドバイザー(2021-)、高松市自治推進審議会委員(2021-)

担当授業科目

組織行動論
人的資源管理論

グローバル、ダイバーシティが進展する中、多様な「人」といかに向き合い、組織力を高めていくのか。次世代のマネジメントに求められる視点です。そのような「人」に焦点を当てた科目が「組織行動論」「人的資源管理論」です。いずれの科目も理論だけでなく、ケースをもとにディスカッションやグループワークを通じて学んでいきます。
[組織行動論]個人、集団、組織が陥りやすい課題を整理し、個人の意識・態度・行動(パーソナリティ、コミュニケーション、コミットメント、リーダーシップなど)を活性化し、その集合体となる組織の成果(組織風土、組織変革など)をいかに高めていくのかについて考えます。
[人的資源管理論]人材マネジメントの古典的な機能は「序列」「評価」「報酬」「配置・異動・昇格」「教育・開発」です。これらの機能は経営のカスケードリング、すなわち組織の「ミッション」「ビジョン」「方針」「戦略」の流れを汲んで運用される必要があり、それを「戦略的人的資源管理」と言います。人材マネジメントの機能を理解し、戦略的人的資源管理について考えます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

「個人と企業組織の関係性(組織コミットメント、組織風土、モチベーションなど)」「働き方」「キャリア」を研究領域とし、これまで「テレワーク」「ワーク・ライフ・バランス」「ダイバーシティ」などを扱ってきました。最近では「ライフキャリアにおけるワークモチベーションのダイナミズム研究」「ケースメソッド研究会」「キャリアワークショップ」に力を入れています。モチベーションの主要理論は若年成人を対象に精緻化され、少子高齢化が進む中、その説明力に限界がきています。生涯現役社会に向けて中高年成人のモチベーション理論の構築を目指しています。



准教授

Katsunori Sato

佐藤 勝典

略歴

[学 歴] 慶應義塾大学商学部卒業(2002)
慶應義塾大学大学院商学研究科博士前期課程修了(2005)
東北大学大学院経済学研究科博士課程後期3年の課程修了(2012)・博士(経営学)
[職 歴] 東北大学大学院経済学研究科博士研究員(2012-2015)
香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2015-)

担当授業科目

社会起業家論
地域活性化と観光創造
四国経済事情
(地域活性化と地域資源)

[社会起業家論]現代社会では、貧困、ニートや障害者など社会的弱者に関する様々な社会的課題が起きている。これらの課題をビジネスの手法を用いて収益を上げながら事業性を兼ね備えて解決しようとする社会起業家に注目して理論と実態の両面から講義を行う。
[地域活性化と観光創造]四国ツーリズム創造機構と四国経済団体連合会の提供講義である。四国各地を中心として観光関係で活躍するゲストスピーカーに講演してもらう。その後、講演をもとにディスカッションを行うことで、受講生の理解を深め、地域社会や所属する組織での活用を検討する。

研究テーマ

研究実績・実務業績

社会的企業が地域コミュニティにどのような影響を与えるのか、社会的弱者をどのように包摂していくのかについて関心を持っている。これまで、中山間地域のコミュニティビジネスや東日本大震災の被災当事者による社会的企業をテーマとして研究を実施してきた。現在は、瀬戸内の地域コミュニティでの社会的企業と障害者のライフタイムの視点に立った就労移行支援などの社会参加をテーマとして研究している。

専任教員



准教授
Tetsuya Shimane
島根 哲哉

略歴

[学 歴] 東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了
[職 歴] 麗澤大学国際経済学部助手(1996-1998)
東京工業大学大学院情報理工学研究科助手・助教(1998-2016)
学習院大学政治学研究科非常勤講師(2005-2008)
上智大学経済学部非常勤講師(2010-2019)
東京工業大学工学院助教(2016-2019)
香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2019-)

担当授業科目

統計分析
都市・環境政策の経済評価

[統計分析]個人の経験のみによらない客観的な“事実”を理解することが、様々な場面で求められています。“事実”を見つけ出すためには、集めたデータを統計学的な観点から分析することが有用です。この講義では、サンプルデータを分析する実習を交えて、統計学の基礎を理解し、実践的な分析スキルの獲得を目指します。

[都市・環境政策の経済評価]事実に基づいた判断が、政策決定や経営判断の場で重視されつつあります。そのためには、理論的な知見に基づいて問題をモデル化すること、政策がもたらす結果の変化を明らかにするために定量的にデータで分析を行うことが必要です。この講義ではいくつかの都市・環境政策について経済学モデルを通じて考察し、その成果を定量的に評価する方法を学びます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

計量経済学の方法を用いて、個人や企業などの意思決定の実証的経済分析に取り組んでいます。特に空間的に影響を受けるモデルや離散的な選択を扱うモデルに関心を持っています。
分析の対象はあまり限定せず、企業の市場参入や女性の労働参加、環境政策の評価など広く取り組んでいます。



准教授
Kohei Nagamachi
長町 康平

略歴

[学 歴] 東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学(2012)・博士(経済学)
[職 歴] 日本学術振興会特別研究員DC2(2010-2011)
横浜国立大学経済学部非常勤講師(2011-2013)
東京大学大学院経済学研究科助教(2012-2013)
京都大学経済研究所非常勤講師(2014)
香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2014-)
[公 職] 経済産業研究所・地域経済プログラム・プロジェクトメンバー(2013-2017)
東かがわ市基本構想審議会委員長(2022-2023)

担当授業科目

経済分析
地域経済分析

[経済分析]家計・企業等の経済主体の意思決定問題とそこから派生する市場・非市場における諸現象を分析対象とするミクロ経済学を体系的に学びます。経済学の基礎であるミクロ経済学を学ぶことで経済学の応用分野へ進む基礎力を提供すると同時に、経済情勢や経済政策の意義・必要性を大局的な視点から理解する能力を身につけます。

[地域経済分析]地域(都市を含む)の経済活動を分析するための経済学を学びます。具体的には、なぜ都市が存在するのか、都市の人口規模はどのように決まるのか、といった基本的内容やその他地域の経済活動を理解する際に役立つ視点を学びます。また、都市が世界の貿易拠点である点を考慮し、国際貿易についても経済学的視点から学びます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

経済活動の空間分布の決定メカニズムとそれが経済成長・格差、社会厚生にもたらす影響を空間経済学、都市経済学、マクロ経済学等の分析手法を用いて主に理論的・数量的に分析しています。これまで、知識労働者の地理的集中、情報通信技術の発達によるフラグメンテーションと都市の機能的特化、多様な産業・職業・職務が存在する中での都市の階層性、人工知能が都市システムに与える影響を研究してきました。

特任教員



特命教授
Yasushi Yamamoto
山本 靖

略歴

[学 歴] 慶應義塾大学工学部卒業
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修士課程修了 国際経営学修士
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程修了 博士(学術)
[職 歴] 総合商社大倉商事(株)勤務後、日本と米国でシリアル・アントレプレナーとして起業多数
ジーダット(JASDAQ 3841)、オリックス・キャピタル、プライムゲート、PALTEK(東証2部7587)
その他企業の社外役員や顧問就任。千葉工業大学非常勤講師、東海大学非常勤講師
[公 職] 日本システムデザイン学会理事

担当授業科目

国際経営
事業構想論

[国際経営]香川県を含む四国地方の企業の課題の一つは、海外展開とグローバル・ビジネスをいつ、どうやって進めるのかという点にあります。このチャレンジに必要な国際経営における経営理論ならびに海外進出時のプロセスや意思決定について学びます。国際社会で活躍できかつ企業・組織内で活用できる教養とマネジメント能力を身に付けます。

[事業構想論]起業家活動、ベンチャー企業経営、ファミリービジネス、産官学連携、事業再生、スピンオフ、NPO、起業家精神の背景にある米国哲学等のケース・メソッドによる学習、ゲスト講師の講話から新しい知識獲得、理論書の輪読等を通じて、ビジネスプランあるいは小論文を論述できる能力、学会で研究発表できる能力を身に付けます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

実務家としてエレクトロニクスやソフトウェア産業で民間企業の経営管理に従事してまいりました。また日米でベンチャー企業を設立し、経営責任者としてオペレーションを経験しております。経営管理、システム設計、プロジェクト管理、ビジネス上の意思決定や交渉、企業倫理、中小企業・ベンチャー企業のガバナンスをテーマに研究や執筆活動を行っています。
受賞:「製品開発工程におけるイタレーションによる負荷とリスク・アセスメントに関する研究」日本設計工学会論文誌 平成17年度論文賞受賞



特命講師
Miki Nishimura
西村 美樹

略歴

[学 歴] 香川大学大学院地域マネジメント研究科(2018年3月修了)
[職 歴] 日本公認会計士協会四国会事務局長(～2019)、瀬戸内海食ラボ代表(2019～)
香川大学大学院地域マネジメント研究科 産官学連携研究員(2021～2022)
香川大学大学院地域マネジメント研究科 特命講師(2022～)
税理士

担当授業科目

アントレプレナーシップ育成
(演習編)

アントレプレナーシップ育成(演習編)は、地域社会における課題の発見とその解決策を探るため、フィールドワーク等の体験型学習を通じて、課題の設定、解決方法、そして結果発表等のスキルを身につけていくことでアントレプレナーシップを養成します。2024年度は、地域の持続可能な未来創造をテーマに「瀬戸内海食」をコンセプトとして、民間事業者や自治体などと協力し、地域の食を活用したビジネスや観光コンテンツ造成などによる地域活性化の事業プランを考案します。このアントレプレナーシップ・プログラムは、演習編で提案した企画内容に対して次年度は道場編を開講し、課題解決に必要な戦略や政策を立案・実行することのできる人材の育成を目指します。

研究テーマ

研究実績・実務業績

「瀬戸内海食」の創造による地域活性化。「瀬戸内海食」とは、瀬戸内の伝統的食文化に健康食として研究が進む地中海食のプラス面を取り入れた新しい食文化です。「瀬戸内海食」というコンセプトにより瀬戸内圏での広域な協力体制を構築し、多様化する食の課題や観光のニーズに対して一丸となって対応できる可能性について研究しています。歴史・文化などのストーリーと特産品を掛け合わせた食の開発や地域の気候風土から生まれた食を学び楽しむ体験観光コンテンツ「ジオフード」などの試みを実践しています。

本州四国連絡高速道路(株) 共同研究(2020年9月～2022年3月)「瀬戸内の島旅による地域活性化の研究」・ NECソリューションイノベータ(株) 共同研究(2022年12月～2024年3月)「アントレプレナーの事業化プロセスにおけるビジョン形成の知識創造と組織的実践の促進に関する研究」・ (株)JT高松支店 受託研究(2023年9月～2024年1月)「讃岐広島における食の体験観光コンテンツ造成に関する研究」

学びの志に応える、充実した学習設備



講義室

特別講義室、第二講義室の2つを専用的に使用しています。特別講義室と第二講義室は、教員と学生との双方向の授業形式に合う設計になっています。2つの講義室とも講義収録システムを含む最新の情報機器を整備しています。プロジェクト演習・研究には演習室を使用します。



24時間学べる環境

地域マネジメント研究科専用のラウンジ(自習室)とPCルームは24時間利用可能となっています。またPCには統計解析ソフト(SPSS)等研究に必要な設備を兼ね備えており、学習意欲に応える環境が整っています。大学図書館は22時まで利用可能です(休業期間・祝日を除く)。

講義風景



客員教授一覧

志田 慎太郎 元 東京海上日動リスクコンサルティング(株)顧問
 沼田 秀穂 大和大学政治経済学部 教授
 國村 年 國村公認会計士事務所 所長

非常勤講師

非常勤講師は変更になる場合があります。

担当授業科目 四国経済事情(地域活性化と地域政策)

山下 昭史	三豊市長	原 伸幸	経済産業省 四国経済産業局長
池田 豊人	香川県知事	伊藤 一幸	Setouchi-i-Baseチーフコーディネーター
高田 英樹	日本銀行高松支店長	栗尾 保和	香川労働局長
村山 卓	金沢市長	石原 典雄	国土交通省 四国運輸局長
米田 博文	財務省 四国財務局長	大西 秀人	高松市長
荒瀬 美和	国土交通省 四国地方整備局長	古賀 徹	中国四国農政局次長
西岡 邦彦	総務省 四国総合通信局長	中村 正伸	地域マネジメント研究科 教授
遠藤 順也	四国森林管理局長		(2023年度の講師です。)

担当授業科目 四国経済事情(地域活性化と地域資源)

古波津 陽	株式会社 ON-WORK CEO/映画監督	大南 信也	認定NPO法人 グリーンバレー 理事
菅 宏司	かすがいジャパン株式会社 代表取締役	三好 勝則	香川大学 客員教授
北川 智博	瀬戸内うどんカンパニー株式会社 代表取締役	笠原 良二	公益財団法人 福武財団 事務局長
大美 光代	特定非営利活動法人 わがこと 代表理事	古川 康造	高松丸亀町商店街振興組合高松まちづくり株式会社 理事長代表取締役
山内 康伸	弁理士法人 山内特許事務所 弁理士	大森 研一	合同会社 ウサギマル 代表
浅野 智英	総社市まちかど郷土館 館長	山口 仁八郎	株式会社 丸ノ内ホテル 副総支配人兼 総料理長
畦地 履正	株式会社 四万十ドラマ 代表取締役	佐藤 勝典	香川大学大学院地域マネジメント研究科 准教授
多田 善昭	多田善昭建築設計事務所 主宰		(2023年度の講師です。)

担当授業科目 四国経済事情(地域活性化と企業経営)

宮本 喜弘	四国電力株式会社 取締役常務執行役員	中條 博之	香川証券株式会社 代表取締役社長
植田 貴世子	株式会社クラッシー 代表取締役	半井 真司	四国旅客鉄道株式会社 代表取締役会長
真鍋 康正	高松琴平電気鉄道株式会社 ことでんグループ代表 高松琴平電気鉄道代表取締役	多田野 宏一	株式会社タダノ 代表取締役会長
港 義弘	香川県農業協同組合中央会・各連合会会長、香川県農業協同 組合経営管理委員会会長 日本農業新聞代表取締役会長	二ノ宮 敬治	メロディ・インターナショナル株式会社 CIO
戸島 清景	高松空港株式会社 専務取締役	綾田 裕次郎	株式会社百十四銀行 取締役会長
門脇 恵一	三菱商事株式会社 四国支店支店長	西原 義一	香川県信用保証協会 会長
高濱 和則	大倉工業株式会社 代表取締役会長	楨田 裕	株式会社マキタ 代表取締役社長
		西中 美和	香川大学大学院地域マネジメント研究科 教授
			(2023年度の講師です。)

担当授業科目 **ゲーム理論**

穴戸 栄徳 香川大学 名誉教授

担当授業科目 **ビジネス・アカウンティング(財務会計)**

國村 年 國村公認会計士事務所 所長

担当授業科目 **費用便益分析**

那須 清吾 高知工科大学経済・マネジメント学群 教授

担当授業科目 **経営リスク・マネジメント**

志田 慎太郎 香川大学 客員教授

担当授業科目 **企業倫理**

岡本 人志 大阪市立大学 名誉教授

担当授業科目 **環境経営**

木全 晃 周南公立大学 経済経営学部 教授

担当授業科目 **観光地マネジメント**

藤田 明久 株式会社MIXI 独立社外取締役

担当授業科目 **生産マネジメント**

北 真収 和歌山大学 客員教授

■公益財団法人かがわ産業支援財団 提供講義

担当授業科目 **地域の中小企業と経済活性化【公開講座】**

近藤 清志 公益財団法人かがわ産業支援財団 理事長
 富家 孝明 泉鋼業株式会社 代表取締役社長
 早川 茂 一般社団法人希少糖普及協会 代表理事
 後藤 耕司 株式会社朝日通商 代表取締役社長
 住田 浩 高松パレス株式会社 代表取締役社長
 中西 一宏 中西産業株式会社 代表取締役
 白井 正人 日美株式会社 代表取締役社長
 吉原 良一 吉原食糧株式会社 代表取締役社長
 中野 裕史郎 株式会社キウイボム 代表取締役
 松浦 英樹 松浦産業株式会社 取締役副社長
 羽藤 裕子 株式会社中野屋 代表取締役
 高嶋 浩司 有限会社高島産業 代表取締役社長
 多田 周平 株式会社サニーサイド 代表取締役社長
 本田 展稔 株式会社FUJIDAN 代表取締役社長 hacomo株式会社 取締役BOSS
 一般社団法人香川経済同友会 副代表幹事 東かがわ市商工会 前会長
 高橋 寛栄 仁尾興産株式会社 常務取締役

■四国ツーリズム創造機構 提供講義

担当授業科目 **地域活性化と観光創造**

鈴木 康正 高知県観光振興部観光政策課 課長
 宮竹 祐輝 丸亀市産業文化部産業観光課 観光担当副主任
 植田 佳宏 大歩危・祖谷いってみる会 会長 和の宿 ホテル祖谷温泉 代表取締役会長
 村上 律子 株式会社しまの会社 代表取締役
 但馬 智子 公益財団法人福武財団 アートマネジメント部門
 佐藤 勝典 地域マネジメント研究科 准教授

(2023年度の講師です。)



地域マネジメント研究生19期生
東京大学法学部卒業、総務省

三善 那津希
Natsuki Miyoshi

Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. 生きた地域の学びとかけがえのない仲間です。私はこれまで地域に関わる仕事をしてきましたが、デスクワークが中心で、実際に地域にどんな人がいて、何が起きているのかを知る機会がほとんどありませんでした。大学院では、多様なバックグラウンドを持つ仲間と刺激を受けながら、多くの地域づくり実践者やフィールドワークに触れ、仕事の背骨を形成できました。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？

A. 学生シンポジウムとグループ討議です。学生シンポジウムでは、限られた時間の中で多くの人を巻き込みながら準備をしなければなりませんが、多才な同期の皆さんの力で成功を取めることができました。また、幾つもの授業でグループ討議の時間がありましたが、グループメンバーの発言には毎回新鮮な発見があり、楽しく学びを深めることができました。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 私はこれまで学び直しをしたいと思いつつもなかなか一歩を踏み出すことができませんでした。地域マネジメント研究科を知った時、これだという直感があり、踏み出しましたが、想像以上に仕事に直結する学びや、地域にコミットした知識や経験を得ることができました。大学院入学を迷っている方、ぜひ一歩を踏み出して下さい。そこには想像以上の世界が広がっています。



地域マネジメント研究生19期生
御茶の水女子大学 文学部英文学英語学専攻
和洋国府台女子中学高等学校(2021.3まで) 現在は無職

久保 佳美
Yoshimi Kubo

Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. 第1に、新しい社会の見方です。教員として狭い世界で過ごしてきた私にとっては、経営学の視点から見ると全く違って見える事例があることに新鮮な驚きを感じました。第2に、留学生を含む多世代、多業種の学ぶ仲間です。同じ志を持った1年先輩や、プロジェクト研究を通じて得た地域のボランティアの方々との繋がりも、今後の人生の貴重な財産です。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？

A. 「実践型地域活性化演習」でフィールドワークの楽しさを知り、「事業構想論」で研究の土台を作り、「地域マネジメント論」で理論の応用を模索し、「定性的研究方法論」で分析法を学び、「クリティカルシンキング」で思考の癖を直せたことが、自分の研究に繋がりました。プロジェクト研究は、ゼミの沼田教授の的確で親身なご指導のおかげでやり遂げることができました。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 私は退職後「地域の居場所をつくりたい」という思いがあって入学しました。60歳を過ぎたの挑戦で、楽しくも苦しい日々でしたが、この2年間の学びは今後の人生を明るく照らす道しるべとなりました。今では地マネが私の「い〜場所」になっています。人生100年時代です。社会経験を積んでからの学びは、なんとも刺激的で、あなたを活性化させるでしょう。

地域マネジメント研究生19期生
大阪市立大学(現・大阪公立大学)法学部法学科卒業、神戸大学大学院法学研究科修了
株式会社阿波銀行(四国経済連合会へ派遣)

井上 郷平
Kyohei Inoue



Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. まず、地域社会、企業における様々な事象を分析する手法です。経営学の理論や分析・解析方法を改めて学べる機会を得たことは幸運だったと思います。そのうえで、同期の仲間、先生方とのつながりを得たことが何物にも代えがたい「財産」です。異なる業種、年代の方々と「同級生」として議論し、活動をした経験が、今後の人生の糧にしたいと思っています。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？

A. 「地域」に重きを置くビジネススクールならではの講義として、「クリエイティブと地域活性化」「実践型クリエイティブワーク演習」が特に印象に残っております。最初で最後かもしれない？ショート動画の脚本作成や、ある島のPR動画の脚本作成のために仲間と島に何度も訪れ、住民や移住者の方々と交流したことは、日常生活では味わえない貴重な体験でした。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 諸先輩方が言うように、仕事と大学の両立は想像以上に大変で、家族や職場の方々の理解がなければ続けられなかったと思います。それでも、「成長したい」という思いが少しでもあるなら、「失敗を恐れずチャレンジできる環境」「本気で切磋琢磨できる仲間」「一緒に考え、導いてくれる先生方」が揃った地域マネジメント研究科に思い切って飛び込んでみてください。

地域マネジメント研究生19期生
川崎医療短期大学臨床工学科卒業、香川大学医学部附属病院

中山 智仁
Tomohito Nakayama



Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. 様々な理論や分析方法の習得と多種多様な仲間たちとの出会いです。地域マネジメント研究科での授業は私がこれまで触れてこなかった分野も多く、大変ではありましたが、それ以上に新たな知識を得られる新鮮な時間でした。また、仲間たちから様々なアイデアが生み出されることに非常に驚かされ、多種多様な人材が集まることの強みを感じました。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？

A. 「社会起業家論」です。授業の中で、「社会の課題」を考えた時に、自分自身が「医療的ケア児」(医療的ケアを必要とする子どもたち)のために仕事をしたいと考えていたことに気づきかけとなりました。プロジェクト研究でも「医療的ケア児」をテーマに研究するなど、「社会起業家論」の授業は本当に大きな出会いでした。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 様々な授業や仲間との出会いが、みなさんのこれからの人生に影響を与えたいと思います。私は入学当初に思い描いた研究テーマとはまったく別の研究テーマへと変化しました。また、さらに知識を深めたいと感じ、博士課程への進学も決めました。皆さんも地域マネジメント研究科での出会いを通じて、自分自身が変わることを楽しんでください。



Voice

地域マネジメント研究科20期生
下関市立大学 経済学部 経済学科

鳴海 航汰
Kota Narumi

Q. 香川大学ビジネススクールへ入学した動機と目的を教えてください。

A. 学部時代、大学院進学を検討していた時に、MBAという存在に出会いました。通常の大学院修士(博士前期)課程とは一風変わった、実践的な学びを得られるという点に惹かれ、MBA進学を志すようになりました。その中でも、この地域マネジメント研究科は唯一「地域」に焦点を当てたMBAであり、これは面白そうだと思います、本研究科への入学を決意しました。

Q. これまでの学生生活の中で、特に印象的な授業やイベントを教えてください。

A. 「クリティカル・シンキング」です。自分の凝り固まった思考パターンを崩して、筋道立った、偏りのない、合理的な思考をすることは難しい体験でした。しかし、学部時代には体験したことのないような貴重な経験ができた授業でした。この授業で学んだ、論理的・多面的な思考能力は、様々な場面で活用できる武器になると思います。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 「怠る者は不満を語り、努力する者は夢を語る」といいます。地マネを修了したからといって、そこがゴールではありません。大事なのは、地マネであなた自身がどれだけ学び、考え、成長できるかです。地マネに入学して何を成し遂げたいのか、地マネを修了する頃にはどんな自分になりたいのかをしっかりと考え、ご自身の職場で、地マネの入試で、夢を語ってみてください。

地域マネジメント研究科20期生
香川大学法学部法学科、坂出市役所

松田 有矢
Aya Matsuda

Voice



Q. 香川大学ビジネススクールへ入学した動機と目的を教えてください。

A. 地域の人口が減少する中で、地方自治体はこれまでになかった課題に直面し、日々解決策を模索しているところなんです。前例踏襲のやり方だけではうまくいかないことも多く、その問題がなぜ起こっているのかという問題の本質を自分で分析し、解決するための力を身につけるために、地域マネジメント研究科に入学しようと思いました。

Q. これまでの学生生活の中で、特に印象的な授業やイベントを教えてください。

A. 組織行動論です。「ケースメソッド」という形式の授業を受け、履修者全員でひとつの学びを得る体験をしました。授業では予習で考えた内容を元に数人のグループワークで話し合って意見を整理し、クラス全体のクラス討議で意見を集約していきます。自分と他の人の考えが化学反応のように結びついていき、志を同じくする仲間たちと学んでいるのだと楽しくなりました。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 地マネでは、普通に仕事を頑張っているだけでは出会えない人とたくさん出会います。最初はほとんどどこだろうと縮こまっていたのですが、意欲と才能溢れる同級生たちや先輩方、優しく、時に厳しい先生方とともに、今では伸び伸びと自分の学びを追いかけられるようになってきました。地マネで過ごす一日一日を大切に、自分自身をステップアップさせていってほしいと思います。

仕事と勉学の両立



Voice

地域マネジメント研究科20期生
四国電力株式会社

御代田 亮介
Ryosuke Miyota

「為せば成る」

仕事と勉学の両立は大変ですが、1日の予定を把握し、まとまった時間を確保することや、隙間時間を活用することを意識しています。大学院は学術的な知識習得の場だけでなく、先生方からのご指導や学友との切磋琢磨、そして地域の方々とのつながりをはじめとして、人として成長できる場でもあると感じています。今後も「為せば成る」精神で精一杯取り組んでいきます。

■ある1週間のスケジュール

時間	月	火	水	木	金	土	日
6:00							
7:00	食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事	起床	起床
8:00	通勤(自習)	通勤(自習)	通勤(自習)	通勤(自習)	通勤(自習)	食事・家事	食事・家事
9:00							
10:00	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	学校	自習
11:00						食事	食事
12:00	食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事		
13:00							
14:00	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	自習	自習
15:00							
16:00						家事	家事
17:00						自由時間	自由時間
18:00							
19:00	学校	学校	食事・家事	学校	学校	食事・家事	食事・家事
20:00							
21:00	食事・家事		自習			自習	自習
22:00	自習	食事・家事		食事・家事	食事・家事		
23:00			就寝			就寝	就寝
0:00							

仕事と勉学の両立

地域マネジメント研究科20期生
メロディ・インターナショナル株式会社

出水 さやか
Sayaka Demizu

Voice

自分のペースで、できることを一生懸命に

私は仕事も勉強も家事・育児も全力で行いたいという思いから、社内制度を利用し短時間正社員として勤務しています。入学前の意気込みとは裏腹に、両立が上手くできず悩んだこともありましたが、職場や家族のサポート、同期生からのアドバイスや励ましにより、自分のペースがつかめるようになりました。体力的には大変ですが、毎日充実した楽しい日々を送っています。

■ある1週間のスケジュール

時間	月	火	水	木	金	土	日
8:00							
9:00							食事・家事
10:00							自習
11:00							
12:00							
13:00							
14:00	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	学校	
15:00							自由時間
16:00	食事・家事	食事・家事		食事・家事	食事・家事	自習	家事
17:00	自習	自習	自習	自習	自習		
18:00						食事・家事	家事
19:00	学校	学校	学校	自習	学校	自由時間	自由時間
20:00							
21:00	自習	自習	自習			自由時間	家事
22:00	食事・家事	食事・家事	食事・家事	自由時間	食事・家事	自習	自習
23:00	自習	自習	自習				自由時間
0:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝



主な勤務先（過去5年間）

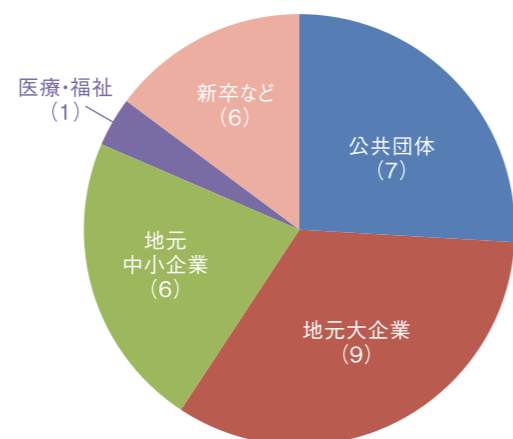
◎ 公的機関

香川県庁・愛媛県庁・高松市役所・丸亀市役所・坂出市役所・さぬき市役所・東かがわ市役所・三豊市役所・観音寺市役所・国土交通省・香川労働局・日本政策金融公庫・りつりん病院・高知大学医学部附属病院・高知県立大学・阪大微生物研究所会・香川大学医学部附属病院・高松赤十字病院 他

◎ 民間企業

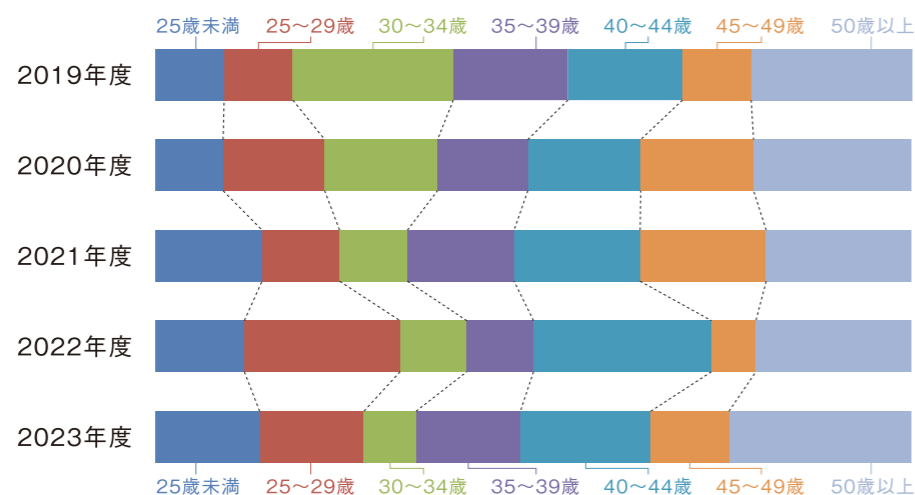
四国旅客鉄道・百十四銀行・四国電力・STNet・阿波銀行・タダノ・西日本放送・瀬戸内海放送・四電エンジニアリング・大倉工業・南海プライウッド・四国化成・セーラー広告・損害保険ジャパン日本興亜・穴吹トラベル・JA岡山東・マキタ・伊予銀行・三菱UFJ銀行・味のちぬや・東京海上日動火災保険・四国水族館開発・JFEスチール・香川県農業協同組合・伊藤忠商事 他

入学者所属構成（2023年度）

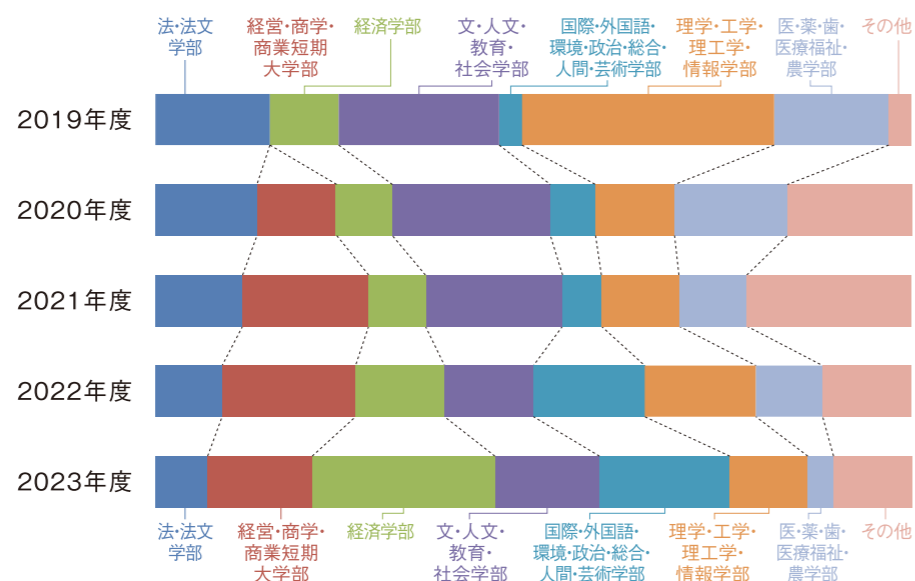


構成比

年齢別構成



出身学部別構成



■ 修学助成の一例

教育訓練給付制度

一定の条件を満たす雇用保険の被保険者、または被保険者であった方が、厚生労働大臣の指定する専門実践教育訓練を受講し修了した場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の一定の割合額がハローワークから支給される制度です。本研究科は、厚生労働大臣の指定を受けた教育訓練講座ですので、本人が支給要件を満たしていれば、最大で入学金と2年間の授業料の70%の支給を受けることができます。詳細は、ハローワークが発行している「専門実践教育訓練の給付金のご案内」のリーフレットを参照してください。

■ 入試の考え方

入学試験においては、アドミッションポリシーと総合的な志望動機や将来の計画を有しているか、カリキュラムを受講するにあたって必要な論理性・表現力を有しているかについて、小論文および書類・面接により審査します。なお、社会人選抜試験によって受験する者については、小論文を免除する代わりに、社会的経験を踏まえたより多角的な書類・面接審査を実施します。

■ 入学者選抜（一般選抜および社会人選抜）を、夏期、秋期、冬期の3期に分けて行います。

	検査日時	出願期間
夏期	2024年 7月13日(土)	2024年 6月12日(水)～6月28日(金)
秋期	2024年 10月12日(土)	2024年 9月11日(水)～9月27日(金)
冬期	2025年 2月1日(土)	2025年 1月6日(月)～1月22日(水)

■ 選抜方法の概要は次図に示したとおりです。

